



令和5年10月23日  
港湾局産業港湾課

**国土交通省とカリフォルニア州による  
港湾の脱炭素化・グリーン海運回廊シンポジウムの開催結果について**  
～グリーン海運回廊の形成に向けた日米協力を促進～

国土交通省は、米国カリフォルニア州運輸省と共催で、日本とカリフォルニア州の港湾の脱炭素化及び日米間のグリーン海運回廊の形成に向けた日米協力を促進するため、令和5年10月20日に、米国カリフォルニア州ロサンゼルスにおいて、「港湾の脱炭素化・グリーン海運回廊シンポジウム」を開催しました。

なお、カリフォルニア州運輸省からも同旨のプレスリリースを実施しています。

1. 日 時： 2023年10月20日(金) 8:00～13:00 (現地時間、GMT-7)
2. 場 所： 米国 カリフォルニア州 ロサンゼルス港湾局管理ビル  
Port of Los Angeles Administration Building  
(425 South Palos Verdes Street, San Pedro CA)
3. プログラム  
別紙1のとおり
4. シンポジウムの開催概要  
別紙2のとおり
5. オンライン配信について  
シンポジウムの様子は、YouTube で公開されています。  
(動画リンク) [https://www.youtube.com/watch?v=\\_Hqby\\_yg7OU](https://www.youtube.com/watch?v=_Hqby_yg7OU)

【問い合わせ先】

港湾局 産業港湾課 国際企画室 山根、上原

電話:03-5253-8111(内線 46463、46469) 直通:03-5253-8679

国土交通省とカリフォルニア州による港湾の脱炭素化・グリーン海運回廊シンポジウム

日時：2023年10月20日(金) 8:00~13:00 (現地時間、GMT-7)

場所：米国カリフォルニア州 ロサンゼルス港湾局管理ビル  
Port of Los Angeles Administration Building  
(425 South Palos Verdes Street, San Pedro CA)

(プログラム)

1. 歓迎挨拶

曾根 健孝  
ジーン・セロカ

在ロサンゼルス日本国総領事  
ロサンゼルス港湾局長

2. 冒頭挨拶 (8:00~9:00)

トックス・オミシャキン  
稲田 雅裕  
パティ・モナハン  
トレンド・ブラッドリー  
ヘクター・デ・ラ・トーレ  
アニー・ペトソング

カリフォルニア州運輸長官  
国土交通省港湾局長  
カリフォルニア州エネルギー委員会委員  
カリフォルニア州経済促進知事室(GO-Biz)副室長  
カリフォルニア大気資源委員会理事  
米国運輸省次官補(ビデオメッセージ)

3. 講演発表 (9:00~12:45)

1) グリーン海運回廊の設立に向けた政府の取組 (9:00~9:30)

- ・国土交通省
- ・南カリフォルニア大学

2) グリーン海運回廊の設立に向けた港湾管理者の取組 (9:45~11:00)

- ・神戸港
- ・横浜港
- ・名古屋港
- ・東京港
- ・ロサンゼルス港
- ・ロングビーチ港
- ・オークランド港
- ・ヒューニメ港 (Port of Hueneme)

3) グリーン海運回廊の創設に向けたベストプラクティス (11:15~12:45)

- ・日本郵船株式会社
- ・豊田通商アメリカ
- ・北米トヨタ
- ・ロングビーチ港コンテナターミナル
- ・カリフォルニア州港湾トラック協会
- ・Ocean Network Express (ONE)
- ・日本水素フォーラム
- ・カリフォルニア州経済促進知事室

4. 閉会 (12:45~13:00)

## (シンポジウムの開催概要)

国土交通省とカリフォルニア州運輸省(CalSTA)は、今年3月に東京で署名のあった「港湾の脱炭素化及びグリーン海運回廊の発展を支援するための国土交通省とカリフォルニア州との間の覚書(Letter of Intent)」に基づき、「港湾の脱炭素化・グリーン海運回廊シンポジウム」を共催で開催しました。<sup>※1</sup>

このシンポジウムにおいて、トックス・オミシャキン カリフォルニア州運輸長官は、「カリフォルニア州は、日本との覚書署名以来、港湾関連からの排出を削減するための重要なステップをすでに踏んでいます。特に、ニューサム カリフォルニア州知事が7月に発表した、4億5千万ドルのゼロエミッション投資を伴う歴史的な港湾・貨物インフラパッケージはその典型です。このシンポジウムは、新たなグリーン経済の原動力となりつつ、我々の野心的な気候変動目標を達成するために、太平洋の両岸で機運を高め続けるための重要な次のステップです。国土交通省の継続的な協力に感謝するとともに、本日、知識を共有してくださった日本とカリフォルニアの各港の港湾局長や幅広い業界の専門家の方々に感謝します。」と述べました。

また、国土交通省港湾局の稲田雅裕局長は、「日本では「2050年カーボンニュートラル」「2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減」という目標を掲げています。こうした中で、国土交通省は、港湾について、気候変動対策の緩和策として、カーボンニュートラルポート(CNP)の推進、洋上風力発電の導入促進、などを進めています。カーボンニュートラルポートの形成を通じて、港湾のみならず産業の脱炭素化にも貢献していきます。」と述べました。

カリフォルニア州との関係については、「日本とカリフォルニア州の主要港を結ぶ基幹航路は、日米の貿易を支える重要な航路です。日本とカリフォルニア州の主要港湾が連携してこの航路でグリーン海運回廊を早期に形成することは、日米双方の経済や産業の発展にも寄与すると考えています。」と述べ、「本日のシンポジウムを一つの契機とし、国土交通省とカリフォルニア州が、港湾管理者や船社等の関係者とさらに連携を深め、グリーン海運回廊の形成に関する具体的な取組を加速することが出来ると期待しています。」と今後の取組の加速への期待も述べました。

カリフォルニア州運輸省からは、「クリーンで再生可能な水素の開発と普及を加速させるため、カリフォルニア州が米国エネルギー省から最大12億ドルの水素ハブを設立します。西半球最大の港湾複合体であるロングビーチ港とロサンゼルス港はプロジェクトのパートナーであり、物資輸送における水素燃料の利用を促進するため、カリフォルニア州からの助成金の一部を受け取る予定です。」との内容が発表されました。

国土交通省からは、「日本はクリーンな再生可能水素の早くからの先駆者であり、すでに港湾・海運分野へのゼロエミッション燃料の導入に取り組んでいます。国土交通省は、脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や水素・アンモニア等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート(CNP)の形成を推進しています。」との内容を発表しました。

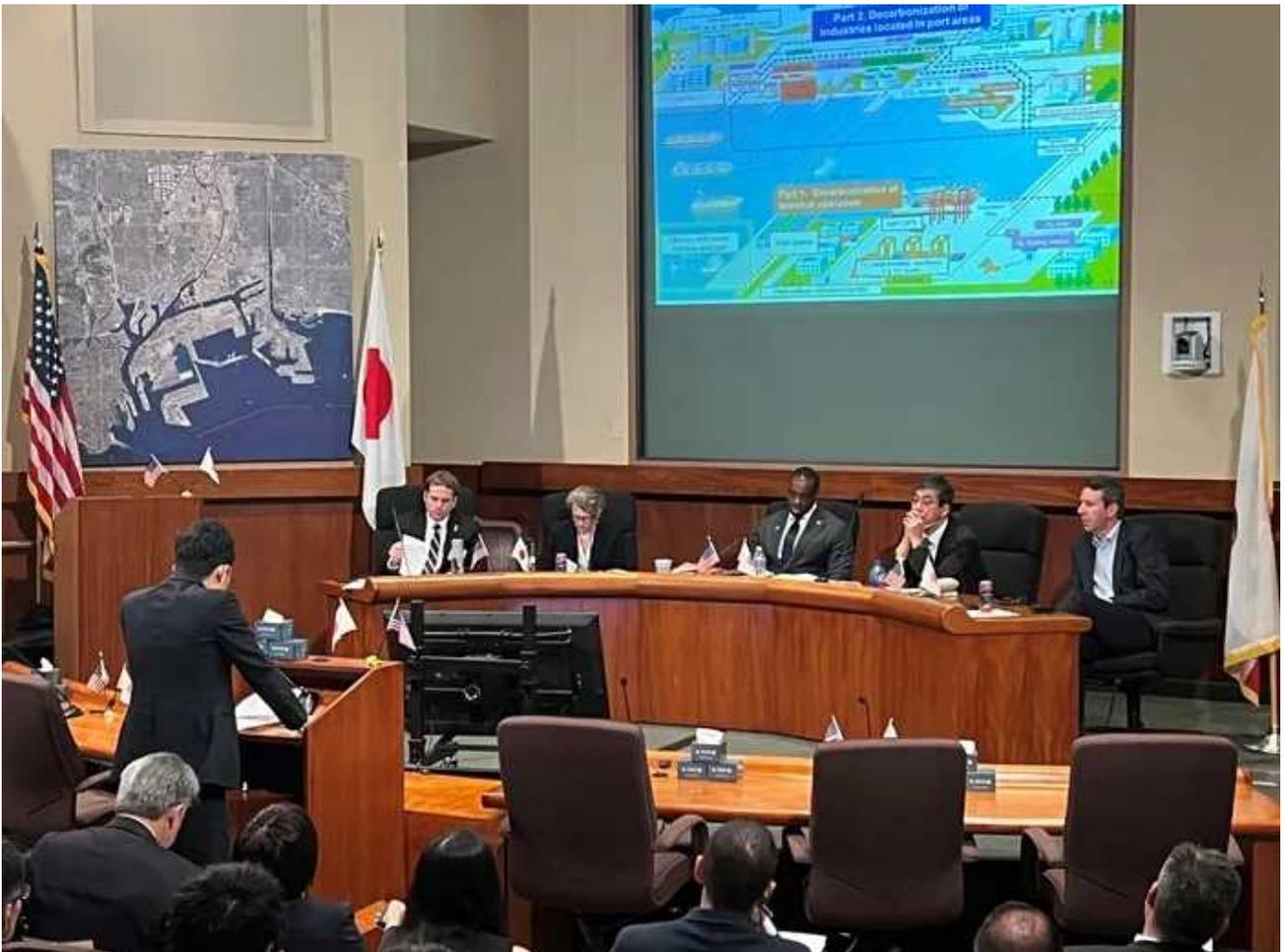
日本の4港(神戸港、横浜港、名古屋港、東京港)及びカリフォルニアの4港(ロサンゼルス港、ロングビーチ港、オークランド港、ヒューニメ港)の港湾局長等からは、環境に配慮した海運分野の連携や港湾からの温室効果ガス排出を削減する取組について発表がありました。<sup>※2</sup>日本の港湾関係者からは、水素エネルギーサプライチェーンの開発についての発言がありました。

ターミナル運営会社、船舶会社、トラック運送会社の代表者からは、グローバルサプライチェーンにおいて重要な役割を持つ各セクターの持続可能性の向上に向けた進捗状況について最新情報が発表されました。日本の民間企業の代表者からは、市場をリードする水素燃料電池車の開発についての発表がありました。

なお、CalSTA は、11月にサンフランシスコで開催されるアジア太平洋経済協力会議（APEC）フォーラムで、シンポジウムの成果を発表する予定です。

※1:本シンポジウムは、COVID-19 パンデミックの発生以来、急速に変化するサプライチェーンも背景に開催されました。2021年に経済全体に衝撃を与えた広範な混乱の後、現在は、世界の海運と港湾の活動は安定し、サプライチェーンをより効率的で持続可能なものに関心が移っています。

※2:この1年間で、横浜港、東京港、名古屋港はロサンゼルス港と気候変動に関する覚書を結んでおり、神戸港はロングビーチ港と港湾の脱炭素化に関する覚書を結んでいます。また、本シンポジウムへの出席と併せて、10月19日には、横浜港がグリーン海運回廊の形成に向けてオークランド港と覚書を、ロングビーチ港と基本合意書を結ぶなど、港湾の脱炭素化やグリーン海運回廊の形成に向けて、港湾間での連携が強化されています。



左から GO-Biz 副局長トレンド・ブラッドリー氏、カリフォルニア州エネルギー委員会委員パティ・モナハン氏、カリフォルニア州運輸長官トックス・オミシャキン氏、国土交通省港湾局長稲田雅裕氏、カリフォルニア州大気資源委員会理事ヘクター・デ・ラ・トーレ氏が、カーボンニュートラルポートについて日本政府関係者から話を聞く様子。